京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十三年 紀元二千五百七十年
本紙定價 一枚金二錢▲一ヶ月前金卅錢▲三ヶ月前金□▲六ヶ月前金貳圓▲郵稅一ヶ月十三錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊(日刊)
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久馬太
印刷人 松久神一郎
京城西署西小門通(電話六六三)
發行所 京城新報社

雜錄

漢城より

(二十六日)　北韓山生

▲東亞煙草會社にては上物の賣行き惡しきやにて、之れを一般喫煙者の嗜好が次第に降下したるものとし不思議の現象と存じ居るが如し、吾等は彼の會社の存寄りを寧ろ不思議とするものに御座候。

▲吾等の見を以てすれば韓人に上物の賣行きの少きは今に始まりたる事にあらず、之れは會社にても承知の筈、日本人に上物の賣行き捗々しからざるは決して嗜好の向下したるに非らず、會社の罪に歸すべき原因在り、吾等は茲に不景氣の結果てふ原因を控除して何が會社の罪なるかを指示せん。

▲上物といへば兩切は從來餘り需用者多からざりしものなれば不二、敷島、及大和を指せるならん、就中最も賣行好かりしは大和なりしならん、然るに大和は曾ても吾等が注意を與へし如く口觸り甚だ宜しからず、極言すれば會社製の朝日にも劣る心地す、其證據には專賣局製の大和は七錢五厘、即ち同社製の大和より五厘高なるも、喫煙者は尚之れを需めんとす、不二、敷島は過分なり、大和は口觸り宜しからずとあれば朝日、山櫻にて我慢せんとするは無理ならざることにあらずや、而して不二、敷島に至りては不景氣の結果てふ原因を除けば從前と差は無かるべし、要領は休めよ東亞煙草會社の面々、何と吾等が「同社の罪」とするに聊かの無理にても有りとばし思し候乎。

▲兩切は初めより韓國にては日本人向きならざるが如し又韓人の需用が下等品に在るは今に始まりしことならず是れは論の外なれば茲に贅せず。

▲要するに官煙上物の賣行宜しからざるは、會社の製品宜しからざるが爲めなりと、吾等は斷言せんとす、今の如くんば兩切は姑らく措き、口付は月世界、西瓜列の煙草に中流以下の顧客を奪はるゝに至るべし、會社なるもの須らく心を此處に致すべきに候。

地方通信

▲平壤通信

●輸出入の劇増　平壤稅關出張所の取扱に係る最近輸出入品は非常に増加したるが例年其最も少なきは七八の兩月なるに本年は其七月中に於ける者は恰も昨年中に於ける最多額なる月の取扱に相當し稀なる現象を示したれば中央關稅局に於ても注目しつゝある由なるが本月は又更に殆ど其多額を怪しみたる前月以上の大多額に上りたり即七月中に於ける額は十七萬餘圓なりしが本月は一昨二十三日迄の調査に於て實に二十八萬五千圓の多額を算し今後月末迄に於るものを加算する時は遙に三十萬圓を超過したる多額を見るに至るべく韓國各稅關所在地中釜山仁川を除きては第一位を占むべく非常なる盛況を見る事なるが右の原因に就ては當地の經濟上注目すべき問題として當局に於ても目下調査中なるが輸入品に就ては一般市中の賣行等も惡からず又之が劇増に對する特殊の原因も認められずとの說もあれば右は今後に於て反動を見るべき性質のものにてはなく一般經濟狀態の發展より來るものならんと云ふ

●輸出入統計作製　平壤當稅關出張所にては今回一般官民の便宜を圖り輸出入貨物の仕出及仕向地等に就き之が國別統計を作り一覽表として同所に備へ附くる事となり目下調製中なるが右にして作製の上は一般商業家にも便宜同所に於て觀覽を許る由

●米油支店の設置　米國スタンダード石油會社は目下韓國販路擴張に努め居れるが今回西韓地方面に於て新販路を開かんが爲め平壤に於て同方面の總支配とも云ふべき支店を設け更に鎭南浦に其出張所を置き且石油は紐育本店より鎭南浦着の直輸入を爲さんとする計畫なる由にて倉庫は一時大同門齋藤久太郎の所有倉庫を以て之に充て事務所を同伊藤佐七氏方に置くことに決定したりと(廿四日)

渡韓記 (三)

勘韓農生

柳江兄足下、濱松を過ぎて金谷に出づるに、コヽは彼の「朝顏日記」にて馴みなる深雪が紅涙を灑ぎしといふ大井川の右岸にして、隨分氐き所に候へば此のたびの大水にて倒潰流失等の家屋夥だしく、殊に停車場前の崩壞せしため木造の大なる建物を曲めて半潰となし且つその土砂は線路に蔽ひ累なりて慘狀目も當てられず候、是れより汽車は危ふげなる單線の假設軌道を徐行して大井川鐵橋を辛くも渡り、島田藤枝、燒津、用宗等の長亭短驛を過ぎて靜岡に向ひ候所、步は一步より水害の慘狀甚だしく、最初濱松より堀の内邊りまでは左程の被害なりとも覺えざりしが金谷以東に於て事實の話し以上なるに驚き入り候、農民の耕やさんにも田は悉く泥土に埋もれ、家は洪水のため、押流されて体一つなり、悄然として僅かに流れ殘りし家財杯を取纒め居り候有樣外の見る目も哀れに御座候其の他慘害の狀、大阪邊りの新聞に詳しければ別に蛇足を添へ不申候、是れより汽車は下の關新橋間の最急行とは申し乍ら前述の次第にて濱松以東は單線となり如何なる小驛にも停車いたし、西行の列車を待合せたる上ならでは發車せず、殊に破壞せる橋梁及び線路の破損せる所は殆んど普通の人が步行するより遲く徐行いたし候ことゝて案外手間取り申し候就中く箱根附近並びに戶塚、程ケ谷の如き被害の大なるものに候、右改修工事に從へる人夫等は連日連夜の勞働とて、勞れしまゝ鶴嘴を枕に地上に横臥せるものすら多く夜も非常なる勞働をなすと見ゆ、到るところ、土瓶の大なるをランプに應用し中に石油を充たして口より異を差入れ點火せしものらしく是等の油煙にて燻ぶりし土瓶何十何百となく各所の臨時工事場に備付けられしを見受け申候、

講談

越後傳吉

大岡政談　第五十九回　旭堂陵南講

闇に怪しい一人の男、右お梅が居るとは氣が付かず　○「ア、何うも大層骨を折らせやアがつた、ヤイ幾ら泣いたつて喚いたつて仕樣があるものか、マア口へ手拭を突込むまでは大分れ骨折だつたが、此所は丁度泉河原、モウ安心なものだ、ソーラ今猿轡を取つて遣るぞ」パラッと猿轡を取る途端に女「アレーッ」○「アレもコレもあるけへ、この街道をば股に掛けて居る些とは名前を知られた惡黨だ、若い者夫婦連が面白可笑しい道中を無惨に通しちやア濟かれねへ、野郎を擲縛つて和女の身體を攫いで來たのは、和女の年が若いし垢脱けして居るし、宿場に賣り込んだらマダ五十や八十の金子になる代者だ、



やい阿魔ッ、是から乃公がいふ通り何にも云はねへで溫順しくなつてろ、汝の身體を棄て慾一方の兄哥だから、汝の何うしやうの何うしやうのと、そんな吝な了見はねへ、金子にせね成りやア宜いんだ、暫くの間宿場女郎を稼いで呉れや宜いんだから、その積りで、宜かい、乃公が連れて行て汝の阿父さんだと云はうが何と云はうが逆はねへで溫順しくして居れそれを汝が愚圖〳〵吐しやアがつたら、その時こそは仕方がねへ叩き殺してしまうから……宜いか、乃公が金子の取引の濟む迄は溫順しくして呉れ　女「モシお前のやうな惡人の手へ罠つたは此身の災難だから仕方がない、だけれども切望妾の身體を賣らうといふ所へ賣るだけは廢めて下さい、モシ、今此所にお金子が二十兩あります、入用なら皆なお前に上げるから、何卒それで妾の身体だけは關な宿場女郎になんぞに叩き賣つたりしないで勘辨して呉れ、[illegible]神さへお呉だつたらそれで宜いから跡の物は皆進ませう、この通り、モシこの通り……」涙ながらに兩手を合して伏拜む、闇夜とは云ながら透して見ると年紀は漸う二十二三、色白のフックリとした美しい女、身體は大柄な方だ　○「ハヽヽヽ、幽の良い言をいふ女だな、汝の懷中にある金子を二十兩と衣服も身體を賣て金にするんぢやアねへか　女「そりやアお前餘り殺生……　○「エイッ殺生も糞もあるものか、何を吐しやアがるんだ愚圖々々云やア是刀だぞッ」ギラリと拔いた八寸三分の匕首、尤も脅迫半分にギラリと引ッ拔いたのです、スルと後の方でこれを聽いて居たお梅が　梅「ア、氣の毒な事だ、惡い奴に誘拐されて、アレ氣の毒なッ」と思ふについてブル〳〵と身顫ひがする、折柄ギラリと光つた白刃の影に私を忘れて　梅「アレーッ」と思はずもお梅の方が怖かつたから聲を揚げた　○「ヤア後に誰か居やアがるなッ」と回首る途端にお梅が逃出さうとしたもんだから、左の手を伸ばしてお梅の首筋をグット摑み　○「ヤイ、恁な所にマダ阿魔ッ女が居たんだな　梅「アレーッ」○「此奴ア美い女が手に入つたわい、二人を叩き賣りや些とは美味へ酒も飲めるだらう」と云ひながらモウ一人の女が隙を窺ひ漸うの事に起き上らうとする奴を、パッと足を上げて押へ付けました、一人の女を片足で踏付け左の手にはお梅の襟髮を摑み右の手に匕首を振冠つた惡黨○「此奴等ア二人ながら、ジタバタすりやア叩き殺してしまうぞ」猿に捕れた小雀同樣、お梅は一生懸命でもつて　梅「アレー、人殺しーッ」といふ悲鳴、足下に踏み付けられた女も、最前から散々聲を揚げて悲しむだものですから、泣き聲も立たぬ、所へ遙か那方よりトッ〳〵〳〵驅けて參りましたる何にも白髮の庄左衛門、何分暗黑、庄藏お梅はモウ泉河原を越して居るか知らんと考へながら來掛る途端に　梅「人殺しーッ、助けてエー」といふ女の聲「ヤヽッ、彼の聲は確かにお梅だ、何か間違ひが出來たんだわい」わが倅の女房、聲に聽き覺があるからパチ〳〵と驅けて參り　庄「お梅ではないか　梅「助けて下さい、梅でございます」偶爾と見ると匕首を振上げて立つて居る野郎、おらめの首筋を摑んで居る樣子　庄「ヤッ、此奴ア盜人かッ」といふと庄左衛門、一旦は名主を勤め二字帶刀御免になつた男だけに、始終腰の一本は離しません、劍術も何も知らないけれども、嫁を助けたい老の一心、サッと刀を拔くなり曲者が片手にお梅の襟髮を片足にモウ一人の女を踏しめて居る背後から　庄「惡黨めが……」といひながらザックと斬込んだ一刀、

日韓關係の復古

半島前途の大光明

近く日韓兩國間の懸案たりし合併問題は賢明なる兩國政府の當局者に因つて圓滿の間に解決された、從來の韓國は大日本帝國の一部となりて舊名の朝鮮と稱するをとなつた、之れ世界の歷史に特筆すべき事實にして同時に世界の人の祝すべきことだ。

獨立國と稱し保護國と稱する其名目は何れにしても歸するところは一千五百萬半島民の福祉にありだ、今や此福祉は半島が大日本帝國の一部となるに因つて一千五百万衆に與へらるることとなつた、心ある半島民が大白を擧げて今回の事を祝する素より當然の事だ。

嗚呼渾圓球上**國家**の**離合**其出來事の總ては**天意**の然らしむるところだ、而して天意の深き余輩之を忖度する能はずと雖も古き韓國を化して新しき朝鮮となしたるの天意に到つては余輩の知るに苦しまざるところだ。

言ふ迄もなく日本人と朝鮮人とは太古に於て**同一の國民**であつた、其全部は然らずとするも其大多數は同一の國民であつた、此同一國民が年所を經るに從ひ種々の事情に因り自然に分離して別個の國民となつた、斯くて別個の國民とはなつたが爭はれぬは**人種、傳說、宗教、言語、風俗**等の類似せることだ、故に時には兄弟墻に鬩くの出來事もあつたが兩國民の間は幾千年の長き渝らざるの**同胞的溫情**を續けた

世は文明となつた、物變り星移り世界の大勢は小國の存在を許さゞるに到つた、過去五十年間に於ける悲慘なる半島の經過は之を一言にして盡せば世界の大勢に對する**半島の抗爭**であつた、半島の君主、半島の國民共に其抗爭に於て良く勉めた、或場合の如きは其活動が全く**鬼神を泣**かしむる程であつた、人事の總ては君主及國民に仍つて盡されて化瀬つた、殘つた所の者は只だ天命、之れ合併前に於ける半島の實際的運命であつた。

大日本帝國の勃興、其勃興は大なる使を伴ふものだ、亞細亞大陸に向かつて**文明を宣傳扶殖**する**命**の發したるものだ、誰か云ふ日本は大陸に膨脹すと、膨脹は單にして眞正の目的は使命を果すにありだ、今や日韓の合併成る、之れ取も直さず帝國にとつては使命を果すの順序にして、半島にとつては新運命に遭逢するの血路だ、新らしき朝鮮其新運命は多望なるものだ、誰か云ふ韓國は亡びたりと、韓國は亡びたるに非ずして**蘇生の途**を得たのだ。

韓國の皇帝陛下聰明にして天意を解し世界の大勢を達觀し其傳承せる國土と國民とを擧げて 天皇陛下に捧ぐ、至仁なる 陛下は之を受けさせ玉ひて日韓兩民の關係太古の狀態に復す。偉なるかな聖德、其化の及ぶ處や文明起る新たなる朝鮮は帝國の一部となりて世界に伍するに到る、半島の前途は**過去の歷史に比なき光明**を以て充されつゝあるのである。

東京電報

▲朝鮮總督府の内容 朝鮮總督府の内容を聞くに總督を置き陸海軍大將を以て之れに親任し總督府に陸海軍部民政部法院部を設け陸海軍人軍屬人事に關しては陸海軍大臣に國防作戰幷に動員に關しては參謀總長若くは軍司令部長に軍隊教育に關しては教育總監部の指揮を受け其の他の事務に關しては內閣總理大臣を經て 天皇陛下の御裁可を受くる事になり居る由（廿七日）

▲合併後の行政區劃 合併後朝鮮に總督府を置き委任立法の制を設くる事に決し其の內容も亦た臺灣總督府の其れと同一なるが其の行政區劃は現在の十三道は現狀の儘とし三百三十餘郡の廢合を行ひ約半數とし以て事務の簡捷經費の節約に務むる筈なり（同上）

▲合併條約八ヶ條 日韓合併條約の內容は八ヶ條より成り頗る簡短なるものなり（同上）

▲韓太子の滿足 韓太子本日 天皇陛下の御召しにより參內時局に關し優渥なる御諚を賜はり太子には殆ど滿足して退出されたり（同上）

▲統監と優詔陞爵 近日中に優渥なる詔勅寺內統監に賜はり陞爵の御沙汰ある由（同上）

▲故藤公へ策命使 時局解決發表後第一世統監たりし故伊藤博文公の墓前に策命使を遣はさるべしと漏れ承る（同上）

▲滿韓鐵道の合併 韓國鐵道は南滿鐵道に合併して經營する筈にて目下鐵道院に於て調査中なり

▲清國皇帝の義捐 清國皇帝は日本の水害を聞し召されて銀十萬兩義捐せられたり（同上）

▲英艦救助の絕望 濟州島沖にて坐礁せる英國軍艦ベドフォードは救助絕望なり（同上）

▲載洵殿下の御一行 昨日長崎御安着の清國皇族載洵殿下御一行は今二十七日朝長崎驛御發車神戸に向ふ送迎盛なり（同上）

▲合併發表と政友會 政友會に於ては政務調査會を開き韓國處分發表の翌日即ち三十日午前九時を期し代議士會を開き韓國問題を討議する事に決定したり（同上）

▲梅博士の叙位叙勳 法學博士梅謙次郎氏病氣危篤の趣き天聽に達し特旨を以て從三位に叙し勳一等瑞寶章を授けらる（同上）

奉天電報

▲滿洲水害の慘狀 陰雨續き新民屯間に洪水あり家屋の流失、人畜の死傷多數にて頗る慘狀を極む（廿七日）

地方電報

▲平壤新聞の解停 發行停止中の平壤新聞は本日より解停の命令ありたり（廿七日平壤）

▲發表は二十九日 日韓合併の宣言書並に條約其他の官制諸法規は愈々來る二十九日を以て發表する事に決定せり

●時局經過の詳報

本紙は當局の言論取締の意を體して時局に關する報道を自ら愼み居たり、而るは昨發行の半官紙京城日報は時局問題の經過と題して合併條約の梗概を公にす、之に因つて言論取締の解除せられたるや明なり、依つて本紙は昨報道を缺きたるの罪を讀者に謝し合せて左の詳報を公にす。

一 韓國皇帝は國民將來の福祉を稀へ主權の全部を日本 天皇陛下に捧る事

一 韓國の領土は日本帝國の一部となり韓國國有及韓皇室の財產は日本政府に引繼がるる事、韓半島は日本主權の下に在る事恰も臺灣の如くなる事

一 韓皇室は從前の如く維持さるべき事、但し皇帝は位を去り臣禮をとりて日本の支配に從ふ事、皇帝を家長とした皇帝及び他の皇族は一家を形成し日本政府より年金百五十萬圓を受領する事、韓皇室は日本の各皇族同等の待遇を受くべき事

一 韓皇帝が自巳を皇帝若しくは國王と稱することは勝手たるべき事、併し韓國稱大韓を廢して朝鮮と稱する事

一 韓國と諸外國との國際條約は自然に消滅し治外法權も自然に消滅する事

一 今より**二ヶ月間は現政治機關を其儘**とし其後は**總督府**を置て統轄する事

一 關稅制度は當分從來の儘たる事

合併條約內容 日韓合併條約は去る二十二日を以て寺內統監と李總理大臣との間に調印を了し韓皇は一切の領土權を擧げて日本皇帝陛下に讓與し獨立國として一切の主權を抛棄し之と同時に日本 天皇陛下及び韓國皇帝より宣言書を發せられ各國に通報する順序とし併せて韓國皇帝待遇は日本准皇族となし從來の皇室の給與百五十万圓は其儘繼續する事とし太皇帝の居住は任意とする事となし條約關稅は此の際急速改正の必要あらざるを以て其儘繼承する事とし今後大凡そ四五ヶ年を經過して徐ろに改正する事となるべく治外法權は此際撤去す又新に華族制を設けて現在の皇族大臣及び功勞あるものは華族に列せしむるも日本の貴族院議員たる資格を有せしめざる事とし現在の處分に就ては現在の凡そ十萬人の中殆ど功勞あるものに對しては公債を下附する等にて其數約百名に達すべし而して現在官職を有するものは成るべく之れを繼續せしむる事とし其他多數者に對しては國立授產場を設け產業に從事せしめ相當の土地を附與して將來の方向を誤らざる方針を取るべし以上は今回條約の大綱なるが愈々合併後如何なる方針を以て之れに臨むかと云ふに國名を朝鮮と稱し發表と共に統監府を廢して總督府を置き寺內統監を總督として諸政及び軍事を總攬せしめ山縣副統監は行政長官に任ぜられ行政一切の監督に當り軍事は駐在軍司令官をした其任に當らしむべし

條約消滅と關稅 別項記載の如く合併後に於ける韓國の對外條約は全然消滅し日本對締盟諸國の條約が新領土の朝鮮へ行はるゝことなれば赤十字條約、郵便條約其他の諸條約等皆當然の結果として移り來るべし故に理論よりすれば關稅も又日本の高率なるものを施行し得べしと雖も外國との直接利害なるに依り日本は特別法を以て韓國の協定稅率を施行し四五年の後徐々に改定をなすべしと云ふ

韓皇の即位紀念 昨二十七日は現韓國皇帝の第四回即位記念日なるも韓國の現狀は該一日中に一變せらる可き事に決したれば例年の如き大典は御都合に依り見合はせられ宮中に於て唯だ簡單の儀式ありしのみ而して例年なれば內外文武諸官の祝賀を受け更に宮中には一大祝宴を催さるべきの處本年は之が爲めに一切を中止

寺內統監の謁見 し李總理以下各大臣及數名の親任官伺候せしのみなりと云ふ
寺內統監は二十九日韓國處分協約發表後直ちに昌德宮に參內して韓皇に謁見を爲すべしと云ふ

●即位紀念日と市中 二十七日は從來の慣例にて市街一面花海の如く殊に別項の如く時局進展の際宮中にては一切の典禮を廢止されたる爲め左なきだに蕭條たる天候は一層市街を寂寞ならしめ何となく今昔の感あらしめたり南大門通りより東大門通に到り更に西大門に通ずる各戶を見るも悉く其門戶を鎖ざし一の國旗を揭揚するものなきが如きは其一例なり

●採木公司事業不振 鴨綠江上流は昨年の農作物凶作にして穀類の價格非常に暴騰せし爲め採木公司にては木材の生產額を增加するの已むを得ざることゝ爲り隨つて安東縣に流下し來る材木の價格比較的高價なる上に天津若くは山東省商人の買漁りにより本年の採木公司事業は極めて不況を呈し居れりとのことなり

●京義間線路の破損 京義線水色長端間二十哩の間は二十六日夜來出水の爲め所々破損し汽車の運轉を休止せしが應急修理を施し今日午後十二時五分南大門發平壤行列車より開通するに至れり尙興水瑞興間も水害の爲め二十六日より汽車不通となりしが二十七日午後より開通せし筈

●總監部所屬の定員 警務總監部は二十六日訓令第三號を以て所屬の定員を定めたるが其合計八員は左の如し
警視、日本人二六、韓人一六通譯三、技師一、警察醫六八、囑八（以上高等官）警部日本人一六七、韓人一〇二、技手二、通譯生日本人二一、韓人五八（以上判任官）

●各大臣昌德宮參賀 二十七日は韓皇の即位第四週年期に相當するを以て總理相は午前十時三十分李總理、高度相、朴內相は午前十一時相前後して昌德宮へ參內して祝詞を言上したり

●韓國側諸官衙休廳 韓國政府所屬各官衙は韓皇第四回即位記念日に就き全部休廳し最終の祝意を表したり

南大門外道路決定 南大門より停車場に通ずる道路は久しく紛論中の處三浦理事官は其解決の急速に運ばれん事を希望し內部に對し熱心交涉を進めつゝありしが漸く決定して現在道路を北側に擴張する事となり而して該道路擴張地域關係者は二十七日川本、三好、和田、茂呂、外一名の五氏を委員に撰定し土地買賣の交涉を爲さしむる事に決せり

須磨丸に虎疫發生 去る二十三日上海出帆二十六日午前鎭南浦入港の汽船須磨丸は檢疫の結果二名の疑似虎列拉を發見し患者は直ちに同地稅關病室に於て治療せしむ而して同船は向ふ五日間同港々外に繫留せしむる事とし尙乘客は三十八名にして停船解除の上は黃海道載寧より九州若松の方面に向ふ由

●故梅博士の燒香式 廿八日午前正九時より南山本願寺に於て石塚、倉富、木內、俵、渡邊、城等の諸氏發起となり燒香式を擧行し朝野多數の參詣ある筈なりと云ふ而して其の遺骨は未亡人梅兼子東京帝國大學法科大學派遣員竹內茂一及法典調查局より派遣の事務官其他門弟護衛して來る廿九日南大門發急行列車にて出發し途中汽車不通なくば三十一日午後四時新橋に到着の筈而して東京に於て日取を定め葬儀を營む筈なり

●韓人漁民の救濟願 朝鮮海水產組合に於ては四十三年度より日本組合員同樣韓人をも救濟するの方針にて本年度韓人救濟取扱規程を定め一般に通知したるも今日迄は一名として救濟を求むるもの無かりし趣なるが今回咸鏡道富寧郡靑下面末陰洞の漁夫馬草潤なる者遭難事項に付き始めて救濟を願出でたりと

●黃州の農事講習會 黃州金融組合にては去る十六日より同地普通學校內に於て郡守會長となり金融組合與村理事講師として農學講習會を開催したるが聽講者四十歲以下十八九歲迄の韓人男四十餘名にて講習科目は土壤改良法、肥料農具取扱、農作物栽培法、家畜飼養法、度量衡等なりしと

●延安の產業講話會 延安地方金融組合にては去る二十一日同地財務署構內に於て第一回農事改良會及び幻燈講習會を開始し種々產業上に幻燈講習會の如き三四百名といふ大多數の出席者ありしと

●內地新聞押收總數 時局に際し總督府が押收したる內地新聞を擧ぐれば左の如し
▲八月十七日發行 報知新聞、同夕刊、大阪每日新聞號外
▲八月十八日發行 都新聞、東京每日新聞、讀賣新聞、大阪每日新聞、大坂朝日新聞、九州日日新聞、大阪新報、每日新聞
▲八月十九日發行 福井新聞、中央新聞、報知新聞
▲八月二十日發行 大阪新報、神戸又新日報
▲八月二十一日發行 馬關每日新聞、
▲八月二十日發行 中央新聞、東京日日
▲八月二十一日發行 大坂每日新聞、九州日々新聞、大阪時事新報、大坂朝日新聞
▲八月二十二日發行 福岡日日新聞、福岡日々新聞、九州日報、大阪每日新聞
▲八月二十一日發行 讀賣新聞
▲八月二十三日發行 馬關每日新聞、九州日々新聞、福岡日々新聞、下關日日新聞
▲八月二十三日發行 山陽新報、大阪時事、大坂每日新聞、大坂の出新聞、福岡日々新聞

●仁川倶樂部合併 仁川倶樂部は二十六日總會を開き木曜會と合併の件を議し九月一日より合併の事に議決せり

●鐵原驛の乘降客 廿七日の分如左
乘客 二等八人三等百四十八
降客 一等二人二等七人三等二百三十二人

●中安代議士入京 代議士中安信三郞氏（京都選出）は廿六日入京須金旅館に投宿

●參謀長家族歸朝 榊原少將母堂令息令孃は廿七日午前龍山驛發歸朝す

▲京城手形交換高▼
廿七日 韓帝即位紀念日に付休業

▲仁川米豆取引所▼
▲前場（二十七日） 一節九圓五十二錢 ▲二節 五十一錢 ▲三節 五十二錢五 十三錢▲出來高 一方千五百五十石
▲後場（廿七日） 八月九月出來不申 ▲十月一節十圓五十三錢 ▲二節出來不申 ▲三節五十三錢五十三錢▲出來高 一萬九千石

▲大阪期米電報▼
▲前場（廿七日） 八月限寄十三圓六十七錢止十三圓七十錢 ▲九月限寄十三圓九十九錢止十四圓五錢 ▲十月限寄十四圓〇九錢止十四圓十二錢
▲後場（廿七日） 八月九月出來不申 ▲十月限寄附二十錢止二十一錢

逝ける梅博士（二）

◎博士の家兄梅錦之丞氏は醫を眼科に學び吾國眼科界の泰斗として名聲籍甚夙に其將來を囑望されしが不幸齡而立に達せずして逝去し然るに氏は性甚だ磊落豪宕にして小事に拘泥せず爲めに逝去に方り些の貯財なく却つて萬餘の負債を存せり博士は家兄の逝去後梅家の嗣子として大に發奮する處あり遺債の整理を行ふと共に其遺族を待つ自己の家族に異ならざりしは世の均しく推賞する處なり

◎博士の頭腦明晰なりしは殆んど無比絕倫なりき而して這は遺傳的にして家兄錦之丞氏も亦博士の如く當時醫界の珍として推服せられ若し今尙は生存する時は優に帝國醫學會の巨手として名聲世界に馳するに到りたるなり殊に博士は學者として啻に篤學の士なりしのみならず數く可き常識の發達を示めし經世家としても確かに稀世の人格を備へたりき

◉博士に民法要義の著あり民法に關する當時の日本は漸く草創の時代に屬し且つ學理の系統四分五裂を極め與に春秋戰國の觀あり此時に當り博士の明敏なる頭腦と深究せる學理とにより發表せられたる此著述は如何に當時の學界を驚かしたるか而して現時日本に於ける民法學の發達せるは博士の此著述に負ふ處鮮からざるなり現に此著出版せらるゝや世評悉く茲に集まり學界の燈明臺として瞬間に數版を重ねたり

◎博士は學者として世を終始せるも於方內閣の法制局長として又其後文部次官として孰れも令名あり則ち博士は啻に一流の學者に非ずして行政家としても其手腕の凡ならざりしを見る所謂博士は知行合一の人にして此點に於て比肩し得べきもの現今の大學敎授中果して幾人かある

◎其後博士は帝室制度取調委員として既定の帝室制度に貢獻する處決して淺からざりしは何人も知る處なり又現民法制定に就ては穗積富井兩博士と共に博士は其委員會の主査となり日本に民法の基礎を築きたり故に現民法は博士の心血を濺げる大事業にして英靈長へに民法と共に傳へらるべし（未完）

◀治外法權▶

時局の解決が濟んだ、言論の取締が寬大になつたと云つて無暗に優先を爭へずに書く譯にも行かぬ、當局者と吾人とは官民の差こそあれ同じく日本人だ、日本人は先づ以て帝國の利益を考へねばならぬ▲廿六日寺內統監は新聞記者を統監邸へ招待した、まづ始めに山縣副統監次に寺內統監から種々の談話があつた、時局解決に關する當局の苦心は大したものだ、記者は正副統監に向かつて衷心の感謝を捧げざるを得ない▲只茲に滑稽な事は寺內統監が新聞記者全體に向かつて兵役に服した經驗の無いものは役に立たぬと云つた事だ、如何に自身が軍人なればとて此放言は餘りにヒドク聞ねた▲招待された新聞記者中兵役に服したものがあるか無いかは記者は與り知らぬ、併し記者自身は乍恐今より十八年前南洋の某島に在り士人と共に西班牙に向かつて戰端を開き四艘の軍艦及び多數の陸兵を相手に實戰を遂げた▲日本でこそ兵役には就かぬが砲煙彈雨の味は良く知つて居る積りだ、新聞記者だからとて何も御承知なしに鐵砲を擔いた經驗の無いものはダメだとはあまりにピドイ言分だ▲寺內統監は佛蘭西仕込の偉らい軍學者だ、同時に西南戰爭の勇士だ、余輩軍學の素養はないが實戰の心得は多少有して居る積りだ、陸軍大將と新聞記者迄も比較にならないか知らぬが若し許しがあればイツでもれ立合を申して良い、新聞記者の頭となしは其後の事に願たい者だ

外人の視たる半島

右記事本日休載

●内地新聞押收總數 [illegible]局に際し總督府が押收したる内地新聞を舉ぐれば左の如し

▲八月十七日發行 報知新聞、同夕刊、大阪毎日新聞號外

▲八月十八日發行 都新聞、讀賣新聞、朝日新聞、大阪朝日新聞、九州日日新聞、大阪毎日新聞、中央新聞、毎日新聞

▲八月十九日發行 報知新聞

▲八月二十日發行 大阪新報、神戸又新日報

▲八月二十一日發行 馬關毎日新聞

▲八月二十一日發行 中央新聞、東京日日新聞、大阪毎日新聞、

▲八月二十二日發行 讀賣新聞、馬關毎日新聞、九州日々新聞、大阪時事新報、大阪朝日新聞

▲八月二十二日發行 福岡日々新聞、九州日報、大阪毎日新聞

▲八月二十三日發行 九州日々新聞、鎮備日々新聞、下關日日

▲八月二十三日發行 福岡日々新聞、山陽新報、大阪新報、大阪時事、大阪毎日新聞、大阪朝日新聞、の出新聞

●延安の産業講話會 延安地方金融組合にては去る二十一日同地財務署構内に於て第一回農事改良會及び幻燈講習會を開始し種々産業上に幻燈講習會の如き三四百名といふ大多數の出席者ありしと



不謹慎な熊さん ▽下女に妻君を兼帶せしむ

立派に女房のある方さへイヤ女郎や藝妓は金が掛る宜しく下女の面の美いのに限るとれ探しになる世の中なれば獨身生活の人が下女に妻君の代用を爲せたとて敢て決して不埒でも不都合でも不名譽でもない或は却つて當人の名譽なるかも知れずと云ふ人あるも夫れは何うも然うも思へず此所に兵庫縣人にて當時北米倉町に居住せる**三浦熊治**（三十）と云は本月八日迄**度支部**土地調査局主事たりし夫れ迄は羽衣町六番戸に一戸を構へ居る中獨り暮の物淋しさに傭女の**さつ**（二十）に思ひを掛け或る日の事夫れとはなしに**交渉開始**に及んだるが元來れさつとて獨身者を撰つて奉公したる程の女なれば皆まで聞かず「で御座いましようとも……ヘエ御尤もですとも……實は私は夙うから**お察し申**して居ましたけれど貴郎が何んとも仰云らないのに妾の方から申し上げるのも何んですから**實は控へて居**りましたのですもの……」と誠に譯の判つた話に熊さん安心の胸をヅーッと撫で下したる翌朝からは**れさつ**の名は**オイ**と變り**熊**さんは旦那樣より**貴郎**と變り夫婦同樣至極御安値に暮して居たり然るに此れより先き熊さんれさつと斯うならざる**以前**チヨイ〳〵發展し居たる北米倉町の料理店**長笑**の**れしづ**（十九）と云ふのと御し並の夫婦契約と云ふのが成立せし當時僕は羽衣町六番戸に只獨り自炊生活をして居るのだから**日曜**には遊びに來いと其の後れさつと斯うなるとは神ならぬ熊さん當時から知らう筈なく申聞かせて有つたので或日れしづが**約束通り遊びに來た**ので熊さんの心配一通りならずれさつには**上役のれ嬢樣**なりと云ひ聞かせれしづさまれ嬢樣と呆氣に取られて居るれしづを無理にれ嬢樣扱ひにしたるも**御愁傷樣**なことには**れしづの造作**が如何に朝鮮でもれ嬢樣には**通用**せざるにぞれさつ忽ち**眞想を看破**し[illegible]當て擦つて待遇したるよりれしづも居堪らず早々逃げ歸つた跡で[illegible]が謝罪つてけりが附いた[illegible]樣護慎罷在つてれさ[illegible]た内れさつの**腹が脹れ**たるより又候謀叛氣を出し長笑[illegible]妬喧嘩絶間なきこと[illegible]**監督官**の耳に入り時節柄[illegible]**諭示**[illegible]**免職**となつたの[illegible]面目なしと現在の所[illegible]の事なるが弱り目[illegible]來に至り何か**刑事問題**[illegible]したので熊さんスッカリ[illegible]とか好かつた跡は惡い[illegible]極つたものだよ

朝鮮の今天一坊 ▽右腋下の黒子を種に ▽朝鮮豪農の息子に化ける

肥後八代町荒神丁山内喬木（[illegible]）と云ふは小學時代より[illegible]中學入學後は一層甚[illegible]も不良にて學年毎に[illegible]見込なきより父は喬[illegible]校を退學させしに其[illegible]が汗水流して貯蓄し[illegible]に費消して了ひ偶々[illegible]を組敷き操り付る等[illegible]父直彦は**痛心**の餘り四十一年一月遂に**發狂**したるにも拘らず少しも改悛の模樣なく[illegible]良少年を唆かして[illegible]浪費し遂には不義理[illegible]掛らずなり同年十二月[illegible]等と共に朝鮮**釜山**に來り[illegible]梁**エーテー商會**に雇はれ[illegible]も暫くして富米町[illegible]**藥行商**人となり[illegible]みて毎日行商し居[illegible]と共に其部落の民家[illegible]より**慶尚南道**昌原府[illegible]里居住**豪農**金[illegible]り十七八年前其頭四[illegible]を何者かに誘拐せられ[illegible]るが其の息子には右の**腋下**に小さい**黒子**あり夫れを何よりの[illegible]心に搜索し居れりとの事[illegible]此の一件を利用して惡事[illegible]立て其夜歸宅後試みに自分[illegible]も檢め見たるに不思議にも[illegible]ありたるより大に打喜び前[illegible]**獨息子に化**け澄ま[illegible]の韓人某に向ひ實は私は朝[illegible]五歳の頃日本に誘拐され日[illegible]學びたれど朝鮮人なる事[illegible]如何にもして**一生一**[illegible]**兩親の顔を見**[illegible]は朝鮮に渡るの外に仕[illegible]して今回渡來し賣藥行商な[illegible]に心中兩親の俤を忘れ難[illegible]らしめ先方より至急連れ來[illegible]書狀を得て昌原府の金方に[illegible]巧みに述べ立て此事を金[illegible]兩親始め親威近所の者は喬[illegible]り息子と信じ**狂氣**の如くなりて**歡迎**したり斯くて金[illegible]なり澄ましたる喬木は昨年九月日本より機業機械を購入するとて**數百圓を持出**し金が[illegible]たる從兄某を釜山に振り捨て[illegible]もなく何處よりか機械一臺[illegible]歸り習くは實直らしく濟し居りしが長居しては化けの皮が露見するより口實を作りて再び日本に渡り**博多柳町**にて豪遊を極め更に鄕里八代に歸り更に同地遊廓にて酒色に耽り居たるを兼て注意中の所轄警察署が認め去る廿一日[illegible]宅にて取押へ目下取調中なりと困つた詐欺漢といふべし

梅の花の落し胤 ▽口惜い人がある筈だ

過般來滯在した當時當地の美しい姐さん[illegible]を一枚と手を代へ品を代へ[illegible]るもれ前さん達には恐ろし[illegible]んす相だからと不名譽な肱[illegible]んれたる東京力士梅の花のれ[illegible]いし〳〵東京の話ながら紹介[illegible]事にあらずだ、此所神田講[illegible]したさ云つても決して惡氣[illegible]しいで持つたぼつとりもの[illegible]月の朔日から一寸見ねなく[illegible]子（十九）近頃の賣盛りをどう[illegible]ハテ時節柄違出の歸りを流[illegible]喰つたかと思へば案外家に[illegible]も見るものを見ざる事六月[illegible]りの有樣、さりとては元來[illegible]いこの妓、食傷するまで惚れずとも事と親類連名帳を繰つて見ると先づ古いところには造兵の人夫請負井上粂之丞（二十五）といふ和事師めいた名前あり、この人とは六年前まだ肩揚に振袖の頃横濱へ一寸住替へて戻つて間もなく小石川諏訪町で家まで持つた事のある粂子の方から落ちた戀、其次には太神樂の海老一社中の某扨其次のは一つい近所の藥屋の旦那、但し此人は飽屑の性と見ねてパッと燃ねついてパッと飽き易い人なればこれまでにも風の吹き廻す方へと無暗に水を向ける代り飽きが來ると直に着古しの羽織でも脱ぐやうに其方に遣すぞよと最負〳〵の役者や角力へ片端から下げ渡すのが癖なれば粂子とても前例に從つてれ下げ渡しの時が來て玉椿にしやうか梅の花にしやうかと思案の末が小松家で梅の花へ引合して貰ふ事都合七度されはこそ粂子惚れつぽい例の癖を出して逢ひたい時には逢はしてやる決して内々で逢ふべからずとある旦那の御諚を背く事幾度か知らず以上數へ上げたうちにれ腹の孩の持つて行き場は差し當り藥屋さんといふ後楯のついてゐる梅の花が踏事御格好と定めて月を繰れば抑も小松家の初の御見は衣更着の二、三、四、五と繰つて見れば正に六月と數が合ふので一も二もなく梅の花の落し胤とさ事極り件の通り座敷を引いていま相談の最中だか聞ゐたり

如何に處分せんとするか ▽仁川警察署を監視せよ

一昨日午後七時頃多所面居住**朴泰信**（三四）なる者仁川新町三丁目通行の際同所**濱岡**吉右衛門方の**飼犬**に**左足を嚙傷**せられたるより被害者は直ちに高木病院にて治療せしめ飼主に對して嚴しく注意を與へ置きたり該犬は狂犬に非ざるも**附近**に**居住**する**日本人**が**同人の通行に際し面白半分に嗾掛**たるによるなりと云ふ

●**浪花館主の美擧** 前月來明治町同館に興行中の廣八一座は豫想外の好人氣にて連夜大入を占め居れるが這般母國水害の慘狀傍觀するに忍びずとなし目下其筋の許可を得次第某々紳士の監督の下に二日間の豫定にて慈善興行を爲し之れより得たる收入より眞正の實費を引去りたる剩餘金は擧げて水災救助の一部に供したしさ力みれるは近來の美擧と云ふべし

●**我夫ならぬ夫重** 朝鮮にては昔より結納金を目的にて重婚を爲す者多き由なるが積城郡東面雪馬洞居住朴召史は（二二）本年陰六月初旬劉東憲なる者と結婚しながら劉に背き金敬一（四〇）に改嫁し金敬一も又其情を知り妻としたる廉により兩人共重婚犯として昨二十七日秋場檢事の手にて起訴さる

▲**赤痢患者續發** 永樂町二丁目百十二番戸板井菊五郎長男孝一（八つ）は一昨二十六日より青坡病院に櫻井町七十一番戸の二度支部雇員矢野〇之助妻とし（三六）及び竹園町二丁目四番戸眞野清二（二九）は同日より大韓醫院に入院せり

●**陳列棚は危險也** 本町一丁目金化堂にては一昨夜十二時過ぎ店の陳列棚の硝子戸を打破られ金緣目鏡並に時計數個を竊取せられたる由なるが夜間戸を〆切りたる後は可成陳列品は置かざる樣注意肝要

●**平山牧場の發展** 同場にては常に乳牛の改良及器械の撰擇等に苦心し純良なる牛乳を顧客に供しつゝあるが昨今牛乳不足の盛況に達し今回更に數頭の乳牛を輸入したれば洽く需要に應すと云ふ

●**不良飲料水投棄** 仁川寺町二丁目一番地古田かめ販賣のラムネ十二本サイダー二本宮町三丁目露店中川はる方香氣水四本同所小松ひろ方サイダー三本何れも腐敗し居たるを以て投棄せり

日曜集會 廿八日

▲日本基督教會（旭町四丁目）午前九時より日曜學校同十時より大谷牧師の禮拜說教「疲勞せるもの我に來れ」午後八時より傳道說教「信仰とは何ぞや」

▲京城基督教會（日の出町）午前八時より日曜學校同十時より米澤牧師の禮拜說教「燥ける心靈」午後八時より傳道說教「哥羅西書」米澤牧師なりと云ふ

▲微笑會 午後四時より初音町（本町九丁目裏手）臨濟寺に圓山大嶺師の無盡燈論提唱ある由同會は廣く同學の入會を歡迎するのみならず會員以外と雖ども參聽隨意とのことなれば晚冷を趁ふて禪話を味ふも時節柄好箇の淸涼劑たるべし尙會員其他一般參聽者の便宜を計り從來毎金曜の定例日を殊更に日曜日午後に改定せし次第なりと

目と耳

▲壽座 合同劇廿八九日兩日の代り狂言は「花見の仇討」三場「性は善」二場「浮世床」三場大切「汽車の進行」

▲廿九日「轉魂狂」三場「工女の色糸」二場「白石噺」三場大切「女生來」三場

▲**浪花館** 廣八一座廿八日代り番組 一御祝儀寶の入船（入登）一朝顔日記舟別之段（廣吉）一れ駒才三鈴ケ森之段（越濱）一太功記十段目（此重）一梅の由兵衛聚樂町之段（此千代）岸姫松三段目（仙春）一雞州下之卷合邦内之段（綱照）一安達原三段目（越壽）一三十三所壺坂寺之段（廣八）一れ半長衛門帶屋段（惣掛合）三味線（豐澤仙平）

●**和城臺日曜奏樂** 廿八日（第四日曜日）午後六時より例に依り韓國駐剳軍陸軍樂隊の一般公衆の爲め倭城臺に於て吹奏せらる演奏曲目左の如し

▲第一部 一、セダンの行進（作者メイステール）二、序樂フイガロの婚儀（同モザアート）三、海色圓舞曲（同ミロツケル）四、長唄鬪隈取安宅の松（陸軍軍樂隊編）

▲第二部 五、序樂十字勳章（同クロイミール）六、歌劇トロヴアトール（詩吟者）（同ヴエルヂー）七、米國行進マンハツタンの渚（同スーザー）八、君が代

▲**平民文庫**▼

▲京城旭町民團裏杉永大弓場に銘仙男羽織一枚を置き忘れたる方なきや（同大弓場）▲私は小料理店の營業を許可せられ居るも未だ開業せざるが此の際現在の場所より他に（市中）移轉を願出でても許さるゝものなりや（一同生）▲許されざるものと思ふが如何のものか（係）▲小僧君僕は工事受負者の又其下の者に雇はるゝ一職工ですが受負者なるものゝ多くはホントーの工事受負業であつて落札すれば夫れを方々に擔ぎ回つて手數料を取つて下受させる▲又其下受人なるもの固より工事にて利益を見るなどの心はなく此れを種に他より資金を借出し工事中榮華をなし下職工へは滿足に拂ひもせず工事落成の上は金主より役所の方を押へられる虞である▲我々下職へは無い金は拂へぬなアとカマし付けて終ふ斯る場合如何にしたら金が取ますか（大和町●●●バラック生）▲腕づくでは不可し臨機應變は其の人にあらざれば出來ぬ警官を煩はすより他に仕方があるまい、果して君の言ふ事が事實ならば訴出るまでもない其の筋で調査の上勞働者保護の途を立てらるゝだらうと思ふ（小僧）▲本町五丁目藥局木下處は水谷の成太郎植田の延二郎丁稚の長三郎上には置として伊藤の璃斑高上の卯三郎加入腕揃ひなれば定めて好演劇が出來ましよう（同業者イ印）▲曙町邊の山本とか云へば近頃チッとは人に知られて來た宿屋だが賓に客に對して不親切極まるケシカラン宿だ投宿者注意せよ（大木●●生）▲七八日前芝居見物にと出懸けた處が隣の席に年も五十に近い白髮の翁さんが小間使とも淫賣ともつかぬ二人の女を連れての見物も可いが芝居は其方退け年甲斐もない女對手の巫山戲ようだ▲餘り見苦しさに何處の人かとヒヨンな好奇心から打出し後跡を附けたるに明治町一丁目のさる石門構への會社へと這入つた▲（中畧）被れは隨分の食はせ者だとか（黒眼）▲瓦の名にも種々あるヒラ、唐草、巴、水カヤル、角巴、鳥ブスヤ、丸瓦、鯱、大鬼瓦、小鬼瓦、輪違ひ、小巴、箱瓦、谷眼、鞆等だ（物識り）

今日の運勢

八月廿八日舊七月廿三日五黄大安乙丑執△一白情義のため保累受け易し肉親族の事煩累あり新事見合せの事△二黒旅行婚談移轉共同結社談合に吉貸借買賣見込違あり△三碧不得要領の日新事目論見談議結合の事に忌む盗害遺失防ぐべし△四綠滅裂し易き日諸事控へ目の事婚談養子談には吉△五黄崩れ易き日とす談合示談中裁事注意すべし△六白幸多き日大抵進んで吉旅行移轉に忌む△七赤靜事の日大凡吉雇入れ見合せの事子孫飼畜の事注意すべし△八白保證引受世話事を禁ず婚談談合依囑請願示談に適す△九紫多少の悦び事ある日とす創業開店披露命名調賓旅行に吉

八月廿九日舊七月廿四日四綠赤口丙寅破△一白權利々益の紛爭起らんとす其他大抵吉△二黒已れを勞して人の益となるあり代理保證連帶共同の事注意すべし△三碧常事は可新事に不可親族故舊の事に痛心煩累あり△四綠遷滯日交渉談議訴訟新事旅行に忌む遺失防ぐべし△五黄賣買取引上紛紜多し酒色賭事を戒しむ△六白業務上失策ある勿れ遺失横領防ぐべし新事見合せの事△七赤新事旅行見合せの事盗病衛生及負傷に注意すべし△八白失遺失を提るべし委任談議婚談新事見合せの事△九紫增益の日業務上進んで吉不動産證券の事注意すべし（本町五丁目三一舘判斷）

●**天氣豫報**（自廿七日午後六時 至廿八日午後六時）

南西風曇後晴

廿六日（華氏）最高溫度 八八、二 最低溫度 七二、九

東京帝國大學教授從三位勳一等法學博士梅謙次郎君豫テ病氣ノ處養生不相叶去ル二十五日大韓醫院ニ於テ薨去候ニ付本日午前九時南山町東本願寺別院ニ於テ燒香相營候間此段辱知諸君ニ謹告仕候也

追而遺骨ハ廿九日午前九時南大門發葬式ハ東京ニ於テ相營申候

八月二十八日

友人 石塚英藏 渡邊暢 吉原三郎 俵孫一 倉富勇三郎 小宮三保松 荒井賢太郎 木内重四郎 城數馬

贈花ハ御斷申上候

滊船出港廣告

月串、甕津、海州行
天草丸
安來丸
成歡丸
隔日出港
仁川港海岸通（電話四一九）柴田回漕店

出港廣告

尼崎汽船
群山木浦釜山下關神戸大阪行
神代丸 月 日午後四時
君が代丸 月 日午後四時發
秀吉丸 月 日午後四時
大有丸 月 日午後四時
木浦釜山下之關神戸大阪行
大有丸 月 日午後四時
仁川港取扱店 高杉回漕部（電話五九）

芙江公州 間出帆廣告

芙江發 毎日後一時（京城方面ヨリ急行接續）
公州發 毎日前七時（京城方面行急行接續）
（御用向ノ御方ハ（京城仁川鳥致院芙江公州）中條店へ御尋被下度候）（乘客共御取扱可申候）

京城曙町（電話一一八〇）

（統監府 宮內府 御用）……表具……

一鴨綠江松材現木
長サ八尺五寸以上二間半
一尺五寸角以上二尺迄
右木材多數所有致し居候に付特別安價に賣却仕候間御望の方は御來談被下度願上候
京城旭町三丁目（電話五六八番）
建築業 柴田芝六
表具部開業
襖額屏風天井壁張及表装一切並書畵の需用に應す
旭町三丁目三日月湯隣
柴田表具部
主任 網島久雄
眞光小太郎
（電話五六八）

夏の和樂園
御料理 席貸
高田家
電九三七
不相變御引立之程乞

緊急廣告

龍山桃山遊廓地
貸地約三萬坪
貸家約八十軒
右は今般警務總監部に於て風紀取締上市内に散在せる飲食店及小料理店極めて短日の間に京龍兩遊廓へ立退きの嚴命有之候に付ては各營業者諸士の御便宜を謀り一面桃山遊廓發展を期するため
地料 八月より向ふ一ケ年間無料
貸家 八月より向ふ一ケ月間無賃
貸與致候
御希望の方は京城旭町三丁目畑瀬右衛門方へ至急御來談有之度候
龍山桃山遊廓事務所



一日にして効能は現る
價（三日分 廿錢）（七日分 四十錢）（十四日分 七十五錢）
本舗 日本大阪 高橋盛大堂 代理店
京城本町五 木下大盛堂
同南大門三 新井藥房
到る所の藥店に販賣す

米國スタンダード製松印石油
下總國野田龜印醬油
仁川日本醬油株式會社製龜印醬油
下總國万上印味淋
尾張名古屋 印墫詰
浮浦根炭及日本木炭
英米煙草會社製品各種
神戸株式會社布引礦泉所製馬蹄印
豐後湯の花精製品（入浴用）
湯の花菓子（茶甲）瓶入各種
特約店
日韓貿易商 京城本町六丁目 藤富國太郎本店 電話三〇八番（略号 ク）

其他和洋酒、米、麥、石炭、みかん、洋臘、瓦煉瓦、明太魚、鰊、昆布、簾、青筵、味噌、鑵詰、干香、其他乾物類一式

美術、書畵、襖、壁、天井張、
京城壽町一丁目 桂萬吉（電話六二七番）
同岡崎町 矢島鐵工所筋向 桂龍山支店（電話架設中）



齒科治療
本町六丁目
ドクトル 中村安子
（敬そば横町電話一五八三）

醫學士木村先生方劑
健胃整腸散
○腹、下痛痢、腸加答兒、赤痢（下り腹一切）の最良藥
定價 十錢 廿錢
發賣本舗 京城明治町三丁目（電話四二七） 小川藥店
▲本品は市內各藥店にあり最寄にて御買求を乞ふ▼

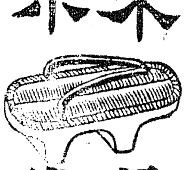
神戸海上運送火災保險株式會社
資本金五百萬圓
出張所 京城明治町一丁目（電話一五四九）

本院は毎日（日曜及祭日を除く外）午前九時より午後四時迄各専門醫に診療を依頼す
松村先生の診療時間は午後二時より
但和田先生の診療時間は午前九時より正午迄とす
京城居留民團囑托 龍山榮町文平山麓
龍山醫院（電話六〇三）

▲西洋雜貨、洋酒、食料品
▲各國煙草、洋菓子、化粧品
▲支那緞子、紋繻子、絹紬類
▲浦潮更紗、毛布類、食器
支那織物は特に大安賣仕候
薄利多賣の目的を大々的安賣仕り候間御小賣とも多少に不拘御用命の程伏而願上候
上等パン製造販賣
大勉强!!!

直輸入卸小賣 (周) 義生盛號
仁川港支那町（電話八一八番）
京城南大門通（電話一二三六番） 義生盛號
釜山南草梁支那町（電話五六〇番） 義生盛號
木浦各國居留地（電話一六九番） 義生盛號
長崎市梅香崎 裕和盛號
本店 奉天城內、上海二擺渡 裕和盛
營口永世街、鎭南浦西門外、芝罘 裕和盛
清國支店 芝罘は日本一等旅館兼業

東京 足袋



本店 東京
京城大和町一丁目（日の出橋際） 大和屋
藤井出張店
明治町勸商場內ニモ出張店アリ 電話二百〇五番
正札付大安賣 厘毛引なし 安心して買へ升

特約販賣自製
味噌醬油製造元 諸物問屋
京城本町五丁目
大上商店（電話二五一番）
和洋酒、(囗)精酢、穀物麵類、銘茶、鑵詰、乾物食料雜貨、ビール、米糀、鹽辛、日本食鹽、荒物各種特約販賣仕候御望に依り商品切手調進

營業科目
和洋紙類
印刷附屬品
印刷インキ
和洋書籍
防腐アシン
穀物食鹽
諸染料類
發 紀 販 賣
東京ランバーノ商會代理店
東京中外アスファルト株式會社代理店
東京千代田生命保險株式會社代理店
東京博文館發行書籍特約店
東京金港堂發行書籍特約店
藤田合名會社
本社 京城明治町二丁目（電話二三〇番）
出張所 東京京橋區南鍋町一丁目（電話新橋三六九二）

諸官衙御用
紙と印刷
諸紙 和洋帳簿 印刷 各種製本
播本（ハリモト）商店
京城本町六丁目 電話百拾番

御待合 紅葉
南大門通三丁目光宣門側
電話一三八二番

明治十年七月創立
東京海上運送火災保險株式會社
資本金一千萬圓
京城代辨店 本町四 山口奧服店 電話九番
●事務所 京城南大門通二 電話一〇六〇番

資本金五十萬圓
積立金九萬七千圓
株式會社 大韓天一銀行
南大門出張所 電話六八一番
電話五五八番
支配人 遠山凞
電話八一六番

京城梅毒病院
京城相生町南門湯横（電話一二九四番）
自午前八時 至午後九時
●花柳病專門 附、痔疾一般
●入院隨意●
院長 醫學得業士 蘆田耕平

京城本町四丁目
印章彫刻
ゴム印彫刻
赤帽子號印舖
電話九三番
諸官衙御用達
奧野岩太郎

旅館
京城南山町三丁目
京城ホテル
電話長一二三番 四九二番
日本室和食
特等（三圓五十錢）
一等（二圓五十錢）
二等（一圓八十錢）
三等（一圓五十錢）

眼科
日曜及祭日は午後二時迄
京城本町一丁目憲兵分遣所前
江頭眼科醫院（電話二十三番）
前漢城病院眼科部長 醫學得業士 江頭富雄

入院隨意
京城壽町三丁目（電話三七八番）
中島醫院
陸士醫學得業士 中島貞信

純良消毒牛乳
京城東四軒町
岡野牧場
電話千六十九番

入院隨意
內外科
小兒科病
梅毒淋病
高井醫院
京城壽町三丁目
電話（二一六）
院長 陸軍軍醫正 高井貞治

★株式會社百三十銀行京城支店
電話百九十四番 五十八番
振替貯金韓國 一一三番

資本金五百萬圓
頭取 安田善三郎
爲替取組先
畿內 大阪、神戸、兵庫、京都、西陣、堺、伏見、郡山、奈良、八木、田原本、高田、貝塚、岸和田、下市、茨木、平野、住吉、御影
東海道 東京、横濱、大磯、靜岡、甲府、津、岡崎、濱松、宇田、藤名、名古屋、熱田、四日市、山田、松阪、千葉
東山道 彥根、大津、八幡、長濱、多治見、大垣、岐阜、中津、宇都宮、高崎、伊勢崎、前橋、若松、福島、酒田、鶴代、土崎、青森、仙台、
北陸道 金澤、小濱、敦賀、福井、鯖江、大聖寺、小松、高岡、富山、伏木、新潟
山陰道 宮津、舞鶴、新舞鶴、豐岡、鳥取、米子、境、松江、久手、大田
山陽道 岡山、味野、牛窓、玉島、笠岡、稱、倉敷、高梁、尾の道、福山、府中、三原、廣島、吳、小郡、岩國、柳井、平生、防府、山口、德山、萩、長府、小月、下之關
南海道 和歌山、田邊、御坊、新宮、尾鷲、串本、高松、坂出、豐濱、川之石、今治、西條、松山、三津ケ濱、州本、八幡濱、宇和島、高知、德島、撫養
西海道 門司、福岡、博多、直方、飯塚、佐伯、大分、別府、臼杵、長洲、長崎、佐世保、唐津、佐賀、若津、牛津、伊萬里、久留米、熊本、鹿兒島、坪井、宮崎
北海道 小樽、函館、
臺灣 臺北、臺南、
樺太 太泊、
韓國 仁川、釜山、平壤、鎭南浦、元山、群山、木浦、羅州、晉州、馬山、尙州、大邱
銀行一般の業務精々便利取扱可申候